

風の輪



龍蔵寺山門。手作りの花器と野の花が温かく迎える。

寄稿

風のひびき



上阪 法山

(こうさか ほうざん)

兵庫県三田市社会福祉協議会中央デイサービスセンター所長。龍蔵寺副住職。

淡路こども園の開設当初から、障害のある人の身体・運動発達についての専門家の立場から助言・指導をいただいています。(題字も筆者)

丹波でお世話になつてい
る龍蔵寺副住職、上阪法山
さんに丹波にちなんだエッ
セイを寄せていただきまし
た。

篠山はデカンショの故郷。

その昔、京都から大阪への裏街道で、今も京文化がしきたりに残っていることも多い。鉄道のルート選定時、かやぶき屋根に汽車の火の粉が飛んでくると反対され、真南条から篠山へは向かわず、汽車で2時間半かかって大阪に買出しに行く店の人をよく目にした。杜氏の里、秋しまいが早く、灘や京都の酒蔵へ。

「自然がそのままある」とは放置と荒れに任せることにつながる。生きた自然が大切だろう。自然に人が手を加え、生活の中に活かすからこそ守ろうとするのであろう。人の手の跡が見え、動物の行動の跡が見える森は、温かさを感じる。おま

えも生きていたのかと声をかけてしまう。

自然の中のものを少しいただし、置場を変えたり、根を下ろす器を選んだり、そのものの特性を大切にしながら用途を多彩化していくと、ちよつとしたアーティスト気分にも浸れる。

自然のものに根気よくつきあうことで、その人の心意気に応えてくれるかのようだ。組み合わせの奇妙な面白さが人の目を楽しませる。石あり、水あり、木あり、草あり、風あり、それらを組み合わせ発想が夢ふくらむ空間を創り出す。そこに人が足を止め、時の流れを遊ぶ。

丹波の山里に売っているものはない。それをつまら

19号 目次

丹波特集 (2～5面)

- ・自然の恵み、梅林 (2面)
- ・生活合宿、竹炭、作物、自然と子ども (3面)
- ・菓草茶、野菜作り (4面)
- ・丹波の家周辺イラストMap (4、5面)
- ・EMボカシと土作り (5面)

◎法人各施設の取り組み (6、7面)

◎いろいろインフォメーション (8面)

ないと思えば過ごせない。売っていなければ作ってみようとの生活姿勢に、自然は私の心や身体の命をつないでくれるように思う。仲間を待っている。